

二つのアザミ

● 単元の確認

全体像の確認

原っぱの
「アザミ」

アザミ

- 美しい紫色の花
- かなりの丈がある濃い緑色の茎の先端に、細い筒状の花びらがふわふわと広がっている
- 下手に触るととげが刺さつて痛い

片仮名の花

「すてきに背高の薺」

- 表現の不思議な魅力に捕らわれる
- 「アザミ」と「背高」を組み合わせて
- 言葉に新しい響き・これまでにない音楽を生み出す

明るい陽のもとで映える花

「裸足で薺を踏んづける！」

- 真っ暗な闇の中に一步を踏み出す勇気

闇に沈んだ見えない「薺」

薺
…
「裸足で薺を踏んづける！」

- 見えてない色が鮮やか
- とげを踏み抜いた足の裏の感触が生々しい

明と暗を持つもの
より豊かな花

- 言葉としての「薺」
- 二つの「薺」が、世界の見方を教えてくれた
- 言葉としての「薺」の色が深まるにつれて、本物の「アザミ」も美しさを増していく

本を読み、言葉に触れ、言葉を育していく喜びは、見慣れていた光景に新しい光が当たられる様子を、驚きをもって眺めることにある。

□ が当てられる様子を、□ をもって眺めることにある。

学習のポイント

- 表現の工夫に気をつけて、筆者の考え方を読み取る。
- 文章中で取り上げられた例について読み取り、言葉に対する筆者の考え方を捉える。

- 1** 筆者が少年時代に見たアザミの特徴をまとめた次の文の□に当てはまる言葉を書きなさい。

美しい□の花で□の花びらが広がつている。

茎はかなり□があり、□が刺さつて痛い。

下手に触ると□があり、□が刺さつて痛い。

をしている。

- 2** 筆者が影響を受けた「薺」についての表現を、十字程度で二つ書きなさい。

□と□の両方の面を持つ□花。

- 3** **2**の表現に出会って、筆者は言葉としての「薺」にどのようなイメージを持ちましたか。次の文の□に当てはまる言葉を書きなさい。

筆者がこの文章を通して伝えようとしていることをまとめた次の文の□に当てはまる言葉を書きなさい。

- 4** 筆者がこの文章を通して伝えようとしていることをまとめた次の文の□に当てはまる言葉を書きなさい。

本を読み、□を育していく喜びは、見慣れた光景に

漢字・語句の確認

教科書 p.14~16

① 漢字の読み書き——線の漢字に読み仮名を書き、片仮名は漢字に直しなさい。

- ① 茎の先端に花びらがある。
□② 花びらが揺れる。
□③ チヨウを捕まえる。
□④ 不思議な魅力。

□⑤ 言葉を辞書に載せる。

- ⑥ 陽の光に映える。
□⑦ 原っぱのカタスミ。
□⑧ コい緑色の葉。

- ⑨ アザミの花が咲く。
□⑩ 言葉の新しいヒビキ。

- ⑪ アザやかな色。
□⑫ オドロきをもつて見る。

③ きらびやかな

きらきらと輝いて

様子。

④ 文脈

ある事柄の背景や周辺の

③ 類義語 次の語の類義語を書きなさい。

① ふさわしい

② 個別

③ 両者

④ 対義語 次の語の対義語を書きなさい。

⑤ 慣用句 慣用句「心に刻む」の意味を、□に言葉を当てはめて完成させなさい。

光 ↑

⑥ 短文作成 次の言葉を使って、短文を作りなさい。

① いつも
② 一節
③ 下に打ち消しの語を伴って)
④ うそ
⑤ うそ
⑥ うそ
⑦ うそ
⑧ うそ
⑨ うそ
⑩ うそ
⑪ うそ
⑫ うそ

① 感動したことなどを
にしつかりとどめる。

② 生々しい東日本大震災・記憶（動詞も加えて）
③ うそ
④ うそ
⑤ うそ
⑥ うそ
⑦ うそ
⑧ うそ
⑨ うそ
⑩ うそ
⑪ うそ
⑫ うそ

詩・文章・音楽などの

② 語句の意味 次の語句の意味を、□に言葉を当てはめて完成させなさい。

① いつも

。下に打ち消しの語を伴って)

② 一節

……ない。

▼必修問題

得点

100



p. 14 16

▼▼次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

少年時代、よく友達と遊んでいた原っぱの片隅に、美しい紫色の花の一群がありました。かなりの丈^(たけ)がある濃い緑色の茎^(くき)の先端^(せんたん)に、細い筒状^(とうじょう)の花びらがふわふわと広がっていて、それが春の風に揺れるのです。うまくすると、花の周囲を舞うアゲハチョウを捕まえることもできました。ただ、下手に触るととげが刺さって、痛い思いをしたものでした。

やがて、その花がアザミと呼ばれていることを私は知りました。漢字で書いたらどうなるのだろう。そう思つて、花の姿や名前の音にふさわしい文字の組み合わせを考えてみたのですか⁽²⁾なかなかうまくいかず、アザミはその後も、頭の中で片仮名^(かたかな)の花として咲いていました。

ところが、ある日、それが「薊」^(きき)という漢字になつて、心に刻まれることになったのです。小学校を卒業した直後の春休みだったでしょうか、町の図書館でたまたま手に取った宮沢賢治^(みやざわけんじ)の本に、「種山ヶ原」^(たねやまがはら)と題された物語が收められていました。達二^(たつじ)という名の主人公が、逃げ出した牛を山の中まで追つていく場面があつて、そこにこんな一節が出てきたのです。

「ところがその道のようなものは、まだ百歩も行かないうちに、オトコエシや、すてきに背高^(せいたか)の薊の中で、二つにも三つにも分かれてしまつて、どうがどれやらいつこう分からなくなつてしましました。」

難しい表現は全く使われていません。詩のようにきらびやかな言葉もありません。それなのに、私はこの文章の不思議な魅力に捕らわれてしまつたのです。なぜ心ひかれるのか、最初はよく分かりませんでした。しかし、何度も読み返すうち、この一文の光が、「すてきに背高の薊」という表現から発せられていることに気づいたのです。

「すてき」も「背高」も、個別には知っていた単語です。けれど、両者を組み合わせて、アザミのような花の上に載せるなんて、想像したことさ

(1) 線①「美しい紫色の花」は何だと分かりましたか。書きなさい。(5点)

(2) 線②「なかなかうまくいかず」とあります。それはなぜだと考えられますか。最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。(5点)

- A アザミの咲く様子がうまく思い出せなかつたから。
B アザミのイメージがはつきりしていなかつたから。
C アザミは片仮名がふさわしいと直感的に思つていたから。
D アザミのイネージがはつきりしていなかつたから。

(3) 出る 線③「この文章の不思議な魅力に捕らわれてしまつた」とありますが、筆者は特にどの表現に心をひかれたのですか。文章中から抜き出しなさい。

(4) 線④「両者」とは何と何を指していますか。それぞれ文章中から抜き出しなさい。

(5) 線⑤「これまでにない音楽」とほぼ同じ意味を表している言葉を文章中から五字で抜き出しなさい。

(6) 出る 線⑥「裸足で薊を踏んづける!」とは、どのようなことを表している表現ですか。文章中から抜き出しなさい。

(10点)

(10点)

(10点)

不要の部分はカット

えりませんでした。「すばらしく背の高いアザミ」と書いても、意味と
しては変わらないでしょう。宮沢賢治はそれを短く刈り込んで、言葉に新
しい響きを、⁽⁵⁾これまでにない音楽を生み出してくれたのです。

それから長い時間がたって、高校生になつたばかりの頃、私は再び書物
の中で、漢字の「薺」に出会うことになりました。梶井基次郎の「闇の絵
巻」と題された短編を読んだときのことです。真っ暗な闇の中に一步を踏
^{(6)はだし}
み出す勇気を、主人公はこんなとえて表現していました。

裸足で薺を踏んづける！」

私は呆然としました。裸足で薺を踏んづけるほどの勇気とは！ 宮沢賢
治の作品を通じて、アザミは明るい光の中ではつきり目に見える紫色の、
「すてきに背高の」、明るい陽のもとで映える花として心に刻まれていまし
た。梶井基次郎は、そこにもう一つ、まるで正反対の、闇に沈んだ見えな
い「薺」というイメージを付け加えてくれたのです。その見えない色の、
なんと鮮やかなことでしょう。おまけに、とげを踏み抜いた足の裏の感触
まで生々しく伝わってくるようです。

少年の頃に私が見ていた野の花としてのアザミは、優れた二人の書き手⁽⁷⁾
の作品のおかげで、明と暗を持つ、言葉としての「薺」になりました。異
なる文脈で出会ったことによって、「薺」は私の心中で、より豊かな花
に育つていったのです。

興味深いのは、言葉としての「薺」の色が深まるにつれて、原っぱに咲
いている本物の「アザミ」も美しさを増していくことです。⁽⁸⁾つまり、二
つの「薺」は、世界の見方を教えてくれたのです。本を読み、言葉に触れ、
言葉を育てていく喜びは、こんなふうに、見慣れていた光景に新しい光が
当たられる様子を、驚きをもつて眺めることにあるのではないでしょうか。

(堀江敏幸「二つのアザミ」より)

(10) よく出る この文章を通して筆者が伝えようとしていることがまとめて述べら
れている一文を文章中から抜き出し、初めと終わりの五字を書きなさい。

二つの作品中の「薺」という言葉によって、

えりませんでした。「すばらしく背の高いアザミ」と書いても、意味と
しては変わらないでしょう。宮沢賢治はそれを短く刈り込んで、言葉に新
しい響きを、⁽⁵⁾これまでにない音楽を生み出してくれたのです。

それから長い時間がたって、高校生になつたばかりの頃、私は再び書物
の中で、漢字の「薺」に出会うことになりました。梶井基次郎の「闇の絵
巻」と題された短編を読んだときのことです。真っ暗な闇の中に一步を踏
^{(6)はだし}
み出す勇気を、主人公はこんなとえて表現していました。

裸足で薺を踏んづける！」

私は呆然としました。裸足で薺を踏んづけるほどの勇気とは！ 宮沢賢
治の作品を通じて、アザミは明るい光の中ではつきり目に見える紫色の、
「すてきに背高の」、明るい陽のもとで映える花として心に刻まれていまし
た。梶井基次郎は、そこにもう一つ、まるで正反対の、闇に沈んだ見えな
い「薺」というイメージを付け加えてくれたのです。その見えない色の、
なんと鮮やかなことでしょう。おまけに、とげを踏み抜いた足の裏の感触
まで生々しく伝わてくるようです。

少年の頃に私が見ていた野の花としてのアザミは、優れた二人の書き手⁽⁷⁾
の作品のおかげで、明と暗を持つ、言葉としての「薺」になりました。異
なる文脈で出会ったことによって、「薺」は私の心中で、より豊かな花
に育つていったのです。

興味深いのは、言葉としての「薺」の色が深まるにつれて、原っぱに咲
いている本物の「アザミ」も美しさを増していくことです。⁽⁸⁾つまり、二
つの「薺」は、世界の見方を教えてくれたのです。本を読み、言葉に触れ、
言葉を育てていく喜びは、こんなふうに、見慣れていた光景に新しい光が
当たられる様子を、驚きをもつて眺めることにあるのではないでしょうか。

えりませんでした。「すばらしく背の高いアザミ」と書いても、意味と
しては変わらないでしょう。宮沢賢治はそれを短く刈り込んで、言葉に新
しい響きを、⁽⁵⁾これまでにない音楽を生み出してくれたのです。

それから長い時間がたって、高校生になつたばかりの頃、私は再び書物
の中で、漢字の「薺」に出会うことになりました。梶井基次郎の「闇の絵
巻」と題された短編を読んだときのことです。真っ暗な闇の中に一步を踏
^{(6)はだし}
み出す勇気を、主人公はこんなとえて表現していました。

裸足で薺を踏んづける！」

私は呆然としました。裸足で薺を踏んづけるほどの勇気とは！ 宮沢賢
治の作品を通じて、アザミは明るい光の中ではつきり目に見える紫色の、
「すてきに背高の」、明るい陽のもとで映える花として心に刻まれていまし
た。梶井基次郎は、そこにもう一つ、まるで正反対の、闇に沈んだ見えな
い「薺」というイメージを付け加えてくれたのです。その見えない色の、
なんと鮮やかなことでしょう。おまけに、とげを踏み抜いた足の裏の感触
まで生々しく伝わてくるようです。

少年の頃に私が見ていた野の花としてのアザミは、優れた二人の書き手⁽⁷⁾
の作品のおかげで、明と暗を持つ、言葉としての「薺」になりました。異
なる文脈で出会ったことによって、「薺」は私の心中で、より豊かな花
に育つていったのです。

興味深いのは、言葉としての「薺」の色が深まるにつれて、原っぱに咲
いている本物の「アザミ」も美しさを増していくことです。⁽⁸⁾つまり、二
つの「薺」は、世界の見方を教えてくれたのです。本を読み、言葉に触れ、
言葉を育てていく喜びは、こんなふうに、見慣れていた光景に新しい光が
当たられる様子を、驚きをもつて眺めることにあるのではないでしょうか。

えりませんでした。「すばらしく背の高いアザミ」と書いても、意味と
しては変わらないでしょう。宮沢賢治はそれを短く刈り込んで、言葉に新
しい響きを、⁽⁵⁾これまでにない音楽を生み出してくれたのです。

それから長い時間がたって、高校生になつたばかりの頃、私は再び書物
の中で、漢字の「薺」に出会うことになりました。梶井基次郎の「闇の絵
巻」と題された短編を読んだときのことです。真っ暗な闇の中に一步を踏
^{(6)はだし}
み出す勇気を、主人公はこんなとえて表現していました。

裸足で薺を踏んづける！」

私は呆然としました。裸足で薺を踏んづけるほどの勇気とは！ 宮沢賢
治の作品を通じて、アザミは明るい光の中ではつきり目に見える紫色の、
「すてきに背高の」、明るい陽のもとで映える花として心に刻まれていまし
た。梶井基次郎は、そこにもう一つ、まるで正反対の、闇に沈んだ見えな
い「薺」というイメージを付け加えてくれたのです。その見えない色の、
なんと鮮やかなことでしょう。おまけに、とげを踏み抜いた足の裏の感触
まで生々しく伝わてくるようです。

少年の頃に私が見ていた野の花としてのアザミは、優れた二人の書き手⁽⁷⁾
の作品のおかげで、明と暗を持つ、言葉としての「薺」になりました。異
なる文脈で出会ったことによって、「薺」は私の心中で、より豊かな花
に育つていったのです。

興味深いのは、言葉としての「薺」の色が深まるにつれて、原っぱに咲
いている本物の「アザミ」も美しさを増していくことです。⁽⁸⁾つまり、二
つの「薺」は、世界の見方を教えてくれたのです。本を読み、言葉に触れ、
言葉を育てていく喜びは、こんなふうに、見慣れていた光景に新しい光が
当たられる様子を、驚きをもつて眺めることにあるのではないか。

- (7) 出る — 線⑦「優れた二人の書き手の作品」とあります。そのA書き
手と、B作品名をそれぞれ文章中から抜き出しなさい。
(5点×4)

A	A
—	—
B	B

- (8) よく出る — 線⑧「明と暗を持つ、言葉としての『薺』」とあります。筆
者は、それぞれどのようなイメージを持ってていますか。文章中の言葉を使つ
て説明しなさい。
(5点×2)

暗	明
——	——

- (9) — 線⑨「二つの『薺』は、世界の見方を教えてくれた」とありますが、
筆者はどのようなことをこのように表現していますか。「二つの作品中の『薺』」
という言葉によつて、……に続くように文章中の言葉を使って説明しなさい。
(15点)

(5点)

——
——
——
——